

市政記者各位

2023 年 1 月 12 日

福岡市博物館

1月から 4つの企画展を開催します

「古代のお寺」「描かれた黒田如水・長政展」「防人たち」「水とくらし」

福岡市博物館では、歴史、考古、民俗、美術の各分野の学芸員が、さまざまなテーマを設け、博物館資料や館外の文化財を展示しています。1月からは、以下の4つの企画展を開催いたします。ふくおかの歴史や文化の魅力を再発見できる本展示を、ぜひご取材いただきますようお願いいたします。

(参考資料として、2枚目に福岡市博物館だより「Facata」129号 4～5ページを添付しております)

① 古代のお寺 1月17日(火)～3月12日(日)

飛鳥時代～平安時代の福岡にあった寺院の多くは、今は無く、その痕跡から「廃寺」と呼ばれています。発掘調査で出土した資料や文字資料から、古代の「お寺」が地域でどのような存在であったのかを探ります。



① 土器に書かれた「寺」の文字
(博多区高畑遺跡)

② 描かれた黒田如水・長政展 1月17日(火)～3月19日(日)

福岡藩祖・黒田如水と息子で初代藩主・黒田長政が描かれた絵画を、収蔵品を中心に展示し、その特徴や移り変わりを紹介します。



② 威厳のある姿の黒田如水・長政像
(筑前名所図会)

③ 防人たち 1月17日(火)～4月23日(日)

博多区雑餉隈遺跡で見つかった奈良時代の東北の土器。これは「俘囚」と呼ばれた古代東北の人の土器と考えられます。古代の防人、鎌倉時代の元寇、太平洋戦争末期の本土防衛、福岡周辺を守るために派遣された人々の痕跡を追います。



③ 東北系の真っ黒な土器
(博多区雑餉隈遺跡)

④ 福岡市水道創設 100周年記念 水とくらし

1月17日(火)～3月26日(日)

大正12(1923)年、曲淵ダムと平尾浄水場をはじめとする一連の施設が完成し、福岡市で上水道の給水が始まって、今年で100年。古代から近現代までの水と人々のかかわりを振り返り、福岡市の水道事業の歩みを紹介します。



④ 博多部の配水管布設

【開催概要】

- ・場 所 : 福岡市博物館 2階 企画展示室 1～4
- ・時 間 : 9時30分～17時30分(入館は17時まで)
- ・休館日 : 月曜日(月曜日が休日の場合は翌平日休館)
- ・観覧料 : 一般200(150)円 高大生150(100)円 中学生以下無料
()内は20人以上の団体料金、料金は常設展示室・企画展示室共通

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課: 松村 TEL 092-845-5011
FAX 092-845-5019

ふくおかの歴史や文化の魅力を再発見できる展示室。館蔵資料から地域に大切に受け継がれている資料まで、幅広いテーマで紹介しています。

企画展示室 1 令和5年1月17日(火)～3月12日(日)

古代のお寺

遠い時代のちよつと身近なお寺たち

大みそかに響く除夜の鐘、境内を通り抜ける子どもたち、令和になり、少しずつ風物は変わっているようですが、私たちのくらしのそばにはお寺があります。日本には、6世紀に百済から仏教が伝わり、その後、お寺が建てられるようになりました。奈良時代に聖武天皇によって東大寺の大仏造立や全国に国分寺の設置が行われたことは皆さんも聞き覚えがあるのではないのでしょうか。筑前国には、九州を代表

するお寺である観世音寺がありました。これら奈良の東大寺や太宰府の観世音寺は、今もお参りをすることが出来ます。一方でこの時代に建てられた多くのお寺は今もありません。福岡市内には「三宅廃寺」「高畑廃寺」などと呼ばれた場所があります。

お寺は何をきっかけに建てられ、なくなっていたのでしょうか。文字資料や出土品から、記録に残らなかった古代のお寺が、どのようにして知られるようになったのか、また古代のお寺が地域でどのような存在であったのかを探っていきます。

(佐藤祐花)



お碗をひっくり返すと「寺」の文字
(南区柏原M遺跡出土)

企画展示室 3 令和5年1月17日(火)～4月23日(日)

防人たち

国防衛のために派遣された人々

福岡は中国大陆に近いため、対外交流の窓口であったと同時に、大陸からの侵入をうけやすい場所でもありました。西暦663年、白村江の戦いで日本は唐・新羅の連合軍に大

敗し、唐の侵攻を恐れた大和朝廷は、対馬・吉岐・筑紫などの国々に、東国から徴兵した兵士を派遣し、「防人」としました。博多区雑餉隈遺跡で、東北地方の土器が奈良時代の竪穴住居から出土しました。住居の形も東北地方のものに似ており、この地に派遣された防人の住居であろうと思われます。

鎌倉時代の蒙古襲来においては、西国武士団が福岡周辺に派遣されました。肥後(現在の熊本周辺)の武士、竹崎季長が自分の活躍を絵に描いた「蒙古襲来絵詞」は、元軍との戦いの様子を雄弁に物語っています。

本展では、古代の防人の他、鎌倉時代の西国武士など、外敵に対応するため、福岡に集まった兵士たちを取り上げます。

(米倉秀紀)

東北地方の土器(博多区雑餉隈遺跡出土)



企画展示室 2 (黒田記念室) 令和5年1月17日(火)～3月19日(日)

描かれた黒田如水・長政展

肖像・絵画が語る如水・長政の遺産

この展示では、福岡藩祖・黒田如水と息子で初代福岡藩主・黒田長政が描かれた絵画を、収蔵品を中心に紹介し、その特徴や移り変わりを紹介します。

如水や長政の没後そう遠くない、江戸時代初めに描かれた肖像は、表情も面影を残しています。如水は寄几に身を寄せくつろぐ隠居姿、長政は勇ましい一

の谷兜姿の馬上像、悟りを求めた参禅図などがあり、2人の生前の生きざまがうかがえます。死後、半世紀を経た17世紀後半になると、長政は衣冠束帯、如水もきちんと座った姿など、威厳ある見映えで描かれ、後に黒田家と藩を守る神として祀られ崇敬されました。

また、長政には元禄時代以降、異なる武将像が生まれます。初めは黒田二十四騎像の中で水牛兜を被った小さな姿であったも

のが、段々と自由に描かれ始め、長政単独の水牛兜像が現れるなど、筑前国内の平和と安泰を護る武勇の象徴として、武家や庶民に親しまれました。(又野誠)



威厳ある姿の黒田如水・長政像

Landscape of the FUKUOKA & HAKATA

常設展示に福岡・博多の“まちの風景”

最近、「まちの風景の移り変わりを知りたい」とのご要望が多く寄せられています。これにお応えする形で常設展示室の「近代都市・福岡の時代」コーナーに大正時代から令和の現在までの福岡・博多のまちの写真を設置しました。展示ケース手前の手すり部分にありますので、ぜひご覧ください。



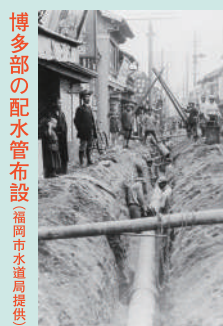
企画展示室 4 令和5年1月17日(火)～3月26日(日)

福岡市水道創設100周年記念水とくらし

福岡の水のかかわり

福岡市では、大正12(1923)年3月1日、室見川上流に建設した曲淵ダムと平尾浄水場をはじめとする一連の施設が完成し、上水道の給水が始まりました。令和5(2023)年は福岡市の上水道事業開始から100年目にあたります。

発掘調査によって、福岡平野では弥生時代から集落で井戸が使われていたことがわかっています。国際貿易港であった中世博多の遺跡からも多数の井戸が見つかっています。博多部の井戸には塩分を多く含む場所があったため、明治時代に入ると市が東公園に井戸を設け、「水売り」が各家に水を販売していました。



博多部の配水管布設(福岡市水道局提供)

水道によって、多くの人が一定の品質の水を確保できるようになると、くらしは大きく変わりました。一方で、周囲に大きな河川がないことにより、福岡市はたびたび水不足に悩まされましたが、昭和58(1983)年の筑後川からの水道用水の導水、令和3(2021)年の五ヶ山ダム完成によって、水事情は安定を迎えました。

本展では、井戸で使われた道具や水道管の保守用の道具の他、上水道事業の歩みを示す写真などを展示します。(野島義敬)



昭和53年湯水の際の給水の様子(福岡市水道局提供)



博多明治風俗図 水売り(石橋源一郎資料)

2023年1月

2月

3月

